

LINN LP-12 の再構成(33)

—総合試聴—

1. 始めに

前報(31)では、LP-12 のカルーセルキットの導入や TruPhase 導入の効果を ST 氏に確認していただきました。前報(32)では、修理が終わった 300B シングルアンプや VRA-7 および USB ダンパーの効果を確認していただきました。今回は、さらに修理をお願いしていた EMT981 の CD プレイヤーをお持ちいただきましたので、その試聴と前回お持ちいただいた Magnetic Wave Guide などの効果の確認、その他今まで聴いていただいていたシステムを試聴していただきました。

2. LINN LP-12 の再構成の実施内容と試聴方法

LINN LP-12 の再構成については、再生経路は、前報(32)のとおりであり、Magnetic Wave Guide は、Magnetic Wave Guide の導入(8)で報告したとおり、LINN LP-12、ZANDEN Model 120 および 300B シングルアンプの電源タップに装着しています。

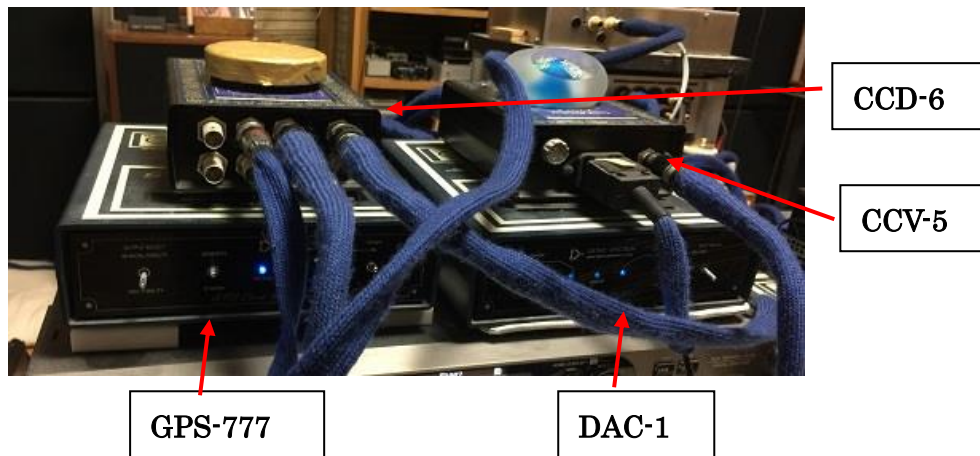
修理の終わった、EMT981 の再生は下記の経路で実施しました。

EMT981(*)→CRV-555(*)→DAC-1→TruPhase

*GPS-777 より CCD-6 経由でクロック入力



なお、リクロッカーに CCV-5 ではなく CRV-555 を使用したのは、EMT-981 のデジタルアウトが RCA ではなく XLR のため、XRL→RCA の変換を避けるため、XLR 入力のある CRV-555 を使用し、CRV-555 のデジタルアウトは BNC として DAC-1 に入力しました。



また、これまでお聴かせしていなかった SIEMENS 20cm フルレンジシステムと EMI DSL529 のシステムも聴いていただきました。

試聴した音源は、手持ちの盤と ST 氏にご持参いただいたもので、次のとおりです。

アナログ盤

メサイア Angel AA9017・C

【EMI カーブ、逆相、第 4 時定数 High】

モルダウ ACCENTUS MUSIC KKC 1171/3

【RIAA カーブ、正相、第 4 時定数 High】

ビートルズ Odeon OR7041 【EMI カーブ、逆相、第 4 時定数 High】

ビートルズ Apple AP-8156 【EMI カーブ、逆相、第 4 時定数 High】

CD

藤田恵美 HD Impression HDI70003

ビートルズ CTA R-180248

ビートルズ Apple CDP-7 46440-2

クラシックオムニバス ABC Int. Record HD-153

ヒラリー・ハーン パガニーニ V 協 DG UCCG-1333

DVD

クリスマスオラトリオ TDK TDBA-0003-4

3. LINN LP-12 の再構成後の試聴結果

上記の【 】内は ZANDEN Model 120 の設定条件です。クラシック以外は、さだかでないレーベルもあって、判断に自信がありませんが、その場の印象を頼りに設定して聴いていきました。

最初に修理の終わった EMT981 をセットし動作確認を行いました。

まず、耳慣らしで PX25 駆動の SIEMENS 20cm フルレンジで藤田恵美の CD を聴

きました。

最初に 47 研 4716 信楽から再生してから、EMT981 からの再生に切り替えましたが、ボーカルのニュアンスやバックの楽器の質感がまったく異なり、ST 氏も別格であるとの感想でした。SIEMENS 20cm フルレンジは、音楽用ではなく、PA 用のものですが、今後の改造のベースとしては十分なレベルであるだろうということになりました。

ここでシステムを替えて、ROGERS CadetIII 駆動の EMI DLS529 試聴で藤田恵美の CD やご持参いただいたビートルズのアナログを聴いていきました。

EMI DLS529 は、アービーロードスタジオモニターの系譜をひくものですが、折り目正しくモニターらしい音であることが確認できました。

ビートルズのアナログ盤は、EMI カーブ vs. RIAA カーブ、逆相 vs. 正相などと切り替えてみましたが、ST 氏は RIAA カーブ、正相が聴きなれたイメージであるとの感想ですが、EMI カーブ、逆相で騒がしさが消え、よくハモる印象です。

ここで、メインシステムの 300B 駆動の FAL C90EXW に替え、CD 再生経路の比較をビートルズの CD などで行いました。

4816 信楽→CCV-5→DAC-1→TruPhase

EMT981→CRV-555→DAC-1→TruPhase

CD ドライブ→fidata→Brooklyn DAC+→TruPhase

スタートは 4816 信楽でしたが、EMT981 に切り替えると差は歴然です。また、位相反転のために CD ドライブからの再生も行いましたが、これも EMT981 とは歴然とした差がつかしました。

これらの途中で、撤去した LHH-1000 に使用していたマグナライザーを EMT981 に敷いたところ、音像、音場とも効果がでたことに ST 氏も驚かれています。

そして、最近オーディオ仲間で話題になっている音像の上下の定位の例 DVD を鑑賞していただきました。

そして、ビートルズのアナログと CD、さらに、最新のモルダウの 45 回転ダイレクトカッティング盤とメサイアのアナログ盤、クラシックオムニバス、ヒラリー・ハーンのパガニーニ V 協の CD などを聴いていきました。

ビートルズのアナログでは、イコライザーカーブと位相反転の切り替えをじっくり聴いていただきましたが、それぞれの特徴はよく把握できるが、聴きなれたビートルズの印象は RIAA カーブの正相とのことでした。

ビートルズの CD の位相反転では、アナログより分かりやすく、位相反転すると、ハーモニーがよく分かるとのことでした。同じアナログマスターのアナログと CD の場合、アナログでは、カートリッジのクロストークやアジマスの調整に由来する左右の位相差がさげられないことから、CD の方が分かりやすいというのは首肯できます。

モルダウとメサイアでは、録音の新旧に拘わらず、広がり感、奥行き感などの音場表現を感じていただけたと思います。

クラシックオムニバスではヨハン・シュトラウスのポルカ・シュネルの雷鳴と稲妻などを聴きましたが、先の DVD と同様、打楽器群の高低差が出ているとのご感想でした。

ヒラリー・ハーンのヴァイオリンはヴィヨームですが、このヴァイオリンの音色はこれまでにない経験であるとのこと感想でした。ヒラリー・ハーンは何度もコンサートで聴いていますが、フランス製のヴィヨームは、クレモナのものとは一味違う音色を持っています。

この他、クロック関連機器の配線状態、VRA-7、VRA-7 模造品やアナログアキュライザー、バランスアナログアキュライザーなどの使用状況、機器の特性による電源タップの棲み分けや Magnetic Wave Guide と iPurifier AC の適用箇所、天井の蛍光灯のカバーへのレゾナンスチップの貼り付け、その他細かいルームチューニングの状況も説明させていただきました。

4. まとめ

EMT981 のポテンシャルの高さを改めて確認でき、一連のアキュライザーファミリーの投入、クロックの活用、マグナライザーやルームチューニングなど細かい調整結果も確認していただきました、

註：

その後、EMT981 と CRV-555 に CCD-6 経由でパラにクロック入力するとわずかなタイミングのずれによると思われるブツブツノイズがまれに入るので、EMT981 のクロックアウトから CRV-555 にカスケード入力してクロックの同期を行いました。

EMT981(*)→CRV-555()→DAC-1→TruPhase**

* : GPS-777 より CCD-6 経由でクロック入力

** : EMT981 のクロックアウトよりクロック入力

さらに CRV-555 のデジタルアウトは BNC から XLR として DAC-1 に接続し、トランスポート→リクロッカー→DAC のデジタル経路のオールバランス化を行いました。

また、EMT981 の電源ケーブルの差し込み口にガタがあるので USB ダンパーを二つ折りにして挟み込み、CRV-555 の電源ケーブルの差し込み口にも USB ダンパーを挟み込みました。

さらに CRV-555 にもマグナライザーを加えるなどの調整も行いました。これらにより、EMT981 のポテンシャルを一層引き出すことができ、さらに安定した再生が実現しました。

以上